

津島町家3×6

3間×6間の町家と、ストック・活用バンクの提案

設計主旨

津島市本町通り周辺は、間口5間を超える大型町家と、間口3間程度の比較的小規模な町家とに分かれる。大型の商家として建てられたものと、長屋や小住宅として建てられるなど、建築の経緯が異なると推測されるが、本提案では汎用性の高いと思われる、間口3間の建物に注目した。間口3間の町家をベースにした建築・活用システムをつくることで、津島町家が長期にわたって住み続けられ、魅力ある街並みを形成していくよう、「津島町家3×6」を提案する。あえて新しい形の町家を提案せず、伝統的な町家のフレームを継承しつつ、そこに新しい暮らしや活用法を挿入することを考えた。そのことで新築町家のみならず、既存町家の再生にも活かされようと考えた。

汎用 どこでも、誰でも

現在空き地になっている土地はの多くは、間口約6m,3間間口の建物が入る。間口3間×奥行6間×2階建て=約32坪の建物は、若い世代が新居を手にするには、手ごろな大きさである。また、モジュールをそろえ、古道具・格子などの部材や構造材の再利用も可能にする。

可変 何にでも

従来、町家の間取りは、建具で仕切られているだけのフレキシブルな間取りである。スケルトンをしっかり造っておけば、様々な暮らしや用途に対応できる。

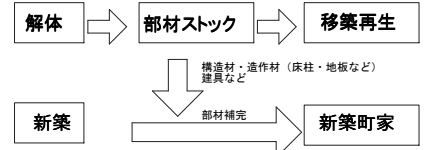
調和 街にとけこむ

瓦屋根、漆喰壁、板張りなど、伝統的に使われている限られた素材で造ることで、おのずと街並みは整ってくる。基本形のベースとして、用途や暮らしに応じバリエーションを展開していく。

町家のストック・活用バンク

使われなくなった、建物・部材をストック。使いたい人とのマッチングを行う仕組みをつくる。運営方法は、いろいろな可能性があるが、行政とNPOなどの協働も一案である。例えば、行政が場所を提供し運営するNPOを支援するなど、考えられる。

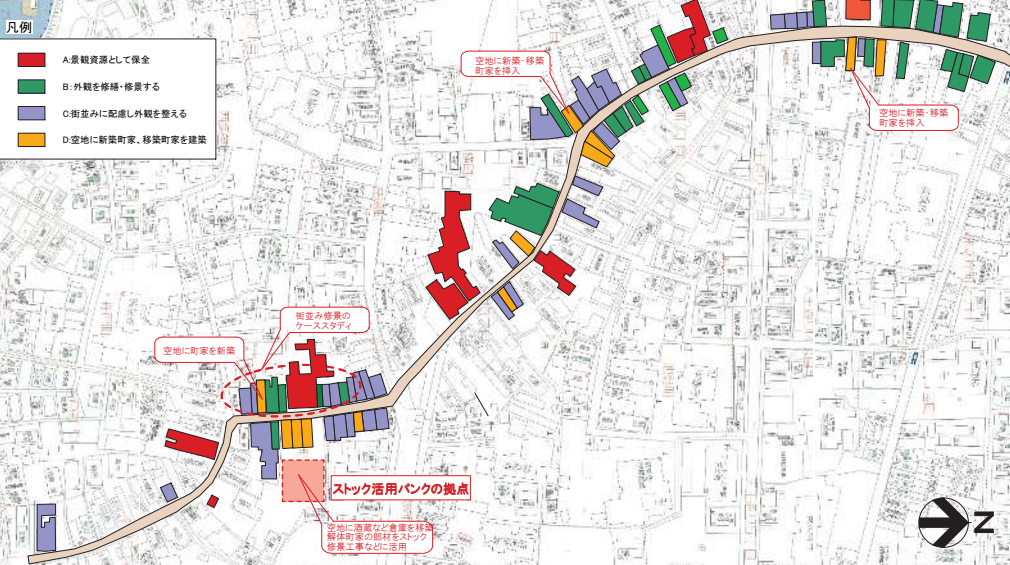
■建築部材のストック・活用バンク



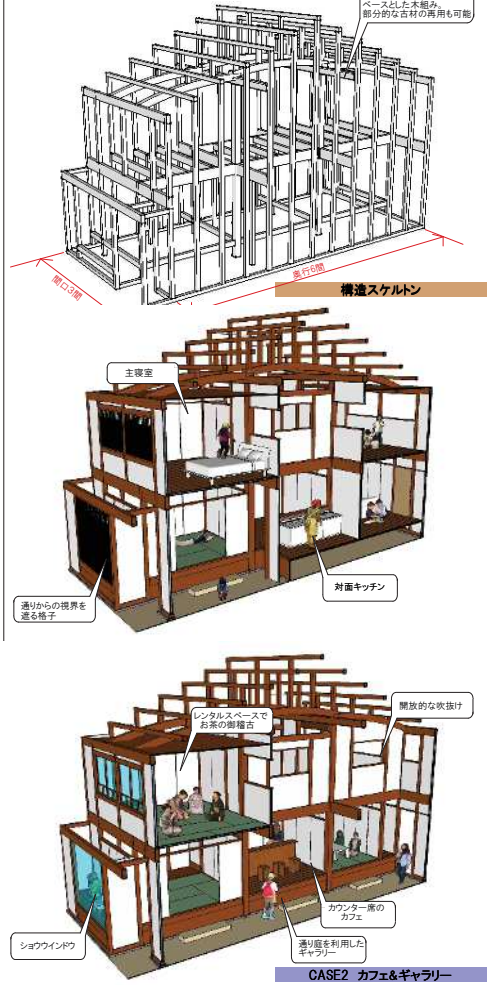
■空家・空地のストック・活用バンク



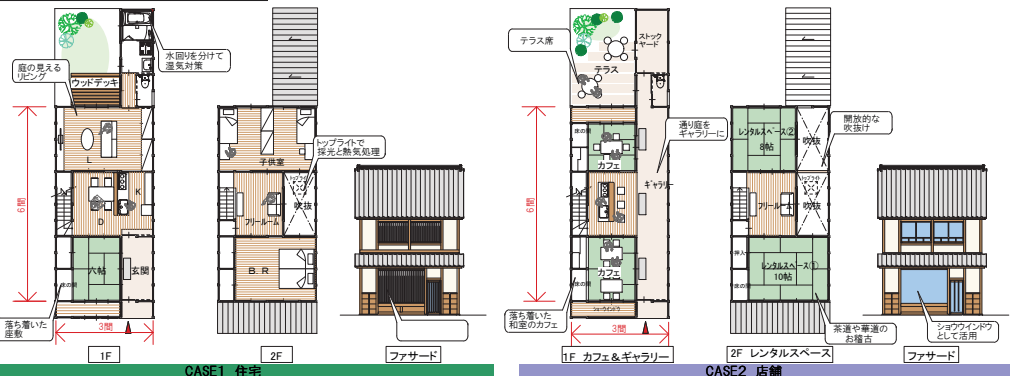
街並みの現状分析



津島町家3×6 様々な展開



津島町家3×6 s=1/150



街並み修景のケーススタディ s=1/150

